

# 「街を知る。街と生きる」 ビジネスチャンスと魅力づくり

熊本市中心部に二つの大型再開発ビルが完成し、「街」に新たなページが加わった。当所と熊本市は「街の動き」を探るべく、六月と八月に中心部の通行量調査を実施した。本レポートは、同調査の結果とともに都市計画の専門家の声も交えて紹介し、これからのビジネスや街づくりについて考えてみた。

※本稿では八月の通行量調査結果を中心に構成しています。六月の結果は、本誌は八月号五ページをご覧ください。（本稿へのお問い合わせ先は当所情報調査課）

## 十二年八月比四・八%の増加

まず八月十八日に計測した通行量調査の結果についてご紹介する。全体の通行量は十五万九千二百九十二人となり、十二年八月結果の十五万一千九百六十一人に対して四・八%の増加となった。今年六月の調査では十二年八月対比で十八・六%と大幅に増加したことに比べて、八月調査は調査日の八月十八日（日）がいわゆる「お盆ウィーク」の最終休日ということもあり、賑わいにやや歯止めがかかった感はあるものの、増加傾向にあることは確認できた。

調査地点を増減率で見ると、増加は「テトリアク



まもと前」を筆頭に「肥後銀行水道町支店前」「岩田屋産文会館（横断歩道）」「びぶれす熊日会館前」など八地点。減少は「辛島公園地下駐車場連絡通路」や「旧富士会館前（現在のパチンコ店「アミューズメントDo

前）」など四地点となった。（詳細は左ページの表及び10ページの地点別・方向別集計を参照）

熊本市に拠点を置き、九州一円の都市計画プランナーとして活躍する株式会社研究所の富士川一裕代表は、この通行量の結果について『「テトリアク」「びぶれす」はともに街全体の核施設として再開発された集客装置ゆえに、通行量が増加することは必然であり、現時点では上通りや水道町に重心が移動することも自然だ。長期的には街全体に良いバランスをもたらすものと見ている』と語っている。

## 熊本市中心部の評価と変遷

全国の都市計画プランナーと日々情報を交換する

富士川氏。「全国のプランナーの間でも、熊本市中心部は全国有数のパワーと潜在力を持ち合わせた街として高く評価されている」と熊本市中心部の「評判」を紹介する。「ここで大切なことは、公共や民間による金銭的な投資だけでなく、相当な時間も費やされて今日の中心部が形成されていること」と、商店主たちが長い時間をかけて築き上げているコンセンサスの形成が最も価値あることと強調する。

富士川氏によると、熊本市中心部はこれまでにいくつもの大きな節目を迎えている。第一段階は一九六〇年代後半。この時期、桜町や辛島町一帯にバスターミナルや大型百貨店など大型再開発が街の核施設として完成した。第二段階は七〇年代から始まった上下通りやその周辺部の発展と充実。そして第三段階は、前述の上通りや手取本町の大型再開発ビルが完成し街全体そして都市文化の核として新たなページが加わった今年からと位置付けている。

「節目ごとに街全体にとっての魅力を充実させながら、それに呼応するように上下通りや周辺部もアーケード、モール整備やコンセプトストアの自然集積など、それぞれの持ち味を生かした発展を遂げている」とこれまでの熊本市中心部の持続的な成長に敬意を表する富士川氏。ただ苦言も忘れない。「二つの大型再開発の完成によって全体のパイは拡大したかもしれないが、それに甘えていてはいけない。通行量の増加をビジネスに生かすための業態転換な

どへのチャレンジや商店街としての新たな長期展望のコンセンサス形成など、個店や街で取り組むべき課題は山積している」と語る。

### 商い、歴史、文化の発掘に期待

熊本市中心部の良さは、「歩いて回れるコンパクトさ」や「地域によって自然にゾーニングなど住み分けができていること」なども挙げられる。これらの好条件を生かした新たなイベント開催や事業連携は大きな可能性を秘めている。また、中心部に止まらず新町や唐人町など周辺部の貴重な地域資源を重ねると、単なる商業集積だけでなく、歴史や文化を合わせた持った新たな魅力ある集積として創造できる大きなポテンシャルを持つ。富士川氏は「その意味で、現在進められている菓子博連携や市立美術館連携の動きはタイムリーでかつ今後のまちづくりの方向付けとして注目に値する」と語る。

これからの中心部の動向は新たな局面を迎えつつある。その中で商工会議所や行政が果たす役割も大きい。「街づくりに商工会議所の果たしてきた実績は大きく、今後も一層期待は増していくだろう」と富士川氏。「行政の役割、使命も同じく大切。地元の実体性や自主性を尊重し、『与える』のではなく『発掘する』ことが重要だ。そのためにも街の中に自ら飛び込み、実際の営みやそこで息づく人間関係を肌で感じて知って欲しい」。

「街は生き物」：日々変化する街を知り、ともに生きる積み重ねこそが新しい街づくりの第一歩だ。大きな可能性と将来性を持つ熊本市中心部の今後の動向が注目される。

#### ■平成14年 8月実施調査

(平成12年 8月対比【増減率(%)順】)

No.	町名 (通名)	調査地点	日曜 (平成14年 8月実施)	日曜 (平成12年 8月実施)	平成12年 8月対比 (%)
11	水道町	テトリアくまもと前 (旧熊本内科前)	6,907	2,483	278.2%
12	水道町	肥後銀行水道町支店前	1,933	1,395	138.6%
1	岩田屋	岩田屋～産業文化会館 (横断歩道)	5,418	4,523	119.8%
9	上通	びぶれす熊日会館前 (旧熊日画廊前)	28,547	25,471	112.1%
4	ワシントン通り	松川印章前	2,411	2,242	107.5%
10	上通	坂梨カメラ前	4,432	4,236	104.6%
6	下通	ダイエー・桜井 總本店前	39,471	37,935	104.0%
7	下通	寿屋北側入口横	10,774	10,614	101.5%
8	駕町通り	鶴屋西側入口横	8,117	8,339	97.3%
5	下通	いけお文具店前	28,090	29,243	96.1%
3	新市街	旧富士会館前	16,465	17,923	91.9%
2	新市街	辛島公園地下駐車場 連絡通路	6,727	7,557	89.0%

#### ■平成14年 8月実施調査

(平成12年 8月対比【増減人数順】)

No.	町名 (通名)	調査地点	日曜 (平成14年 8月実施)	日曜 (平成12年 8月実施)	平成12年 8月対比 (人)
11	水道町	テトリアくまもと前 (旧熊本内科前)	6,907	2,483	4,424
9	上通	びぶれす熊日会館前 (旧熊日画廊前)	28,547	25,471	3,076
6	下通	ダイエー・桜井 總本店前	39,471	37,935	1,536
1	岩田屋	岩田屋～産業文化会館 (横断歩道)	5,418	4,523	895
12	水道町	肥後銀行水道町支店前	1,933	1,395	538
10	上通	坂梨カメラ前	4,432	4,236	196
4	ワシントン通り	松川印章前	2,411	2,242	169
7	下通	寿屋北側入口横	10,774	10,614	160
8	駕町通り	鶴屋西側入口横	8,117	8,339	-222
2	新市街	辛島公園地下駐車場 連絡通路	6,727	7,557	-830
5	下通	いけお文具店前	28,090	29,243	-1,153
3	新市街	旧富士会館前	16,465	17,923	-1,458

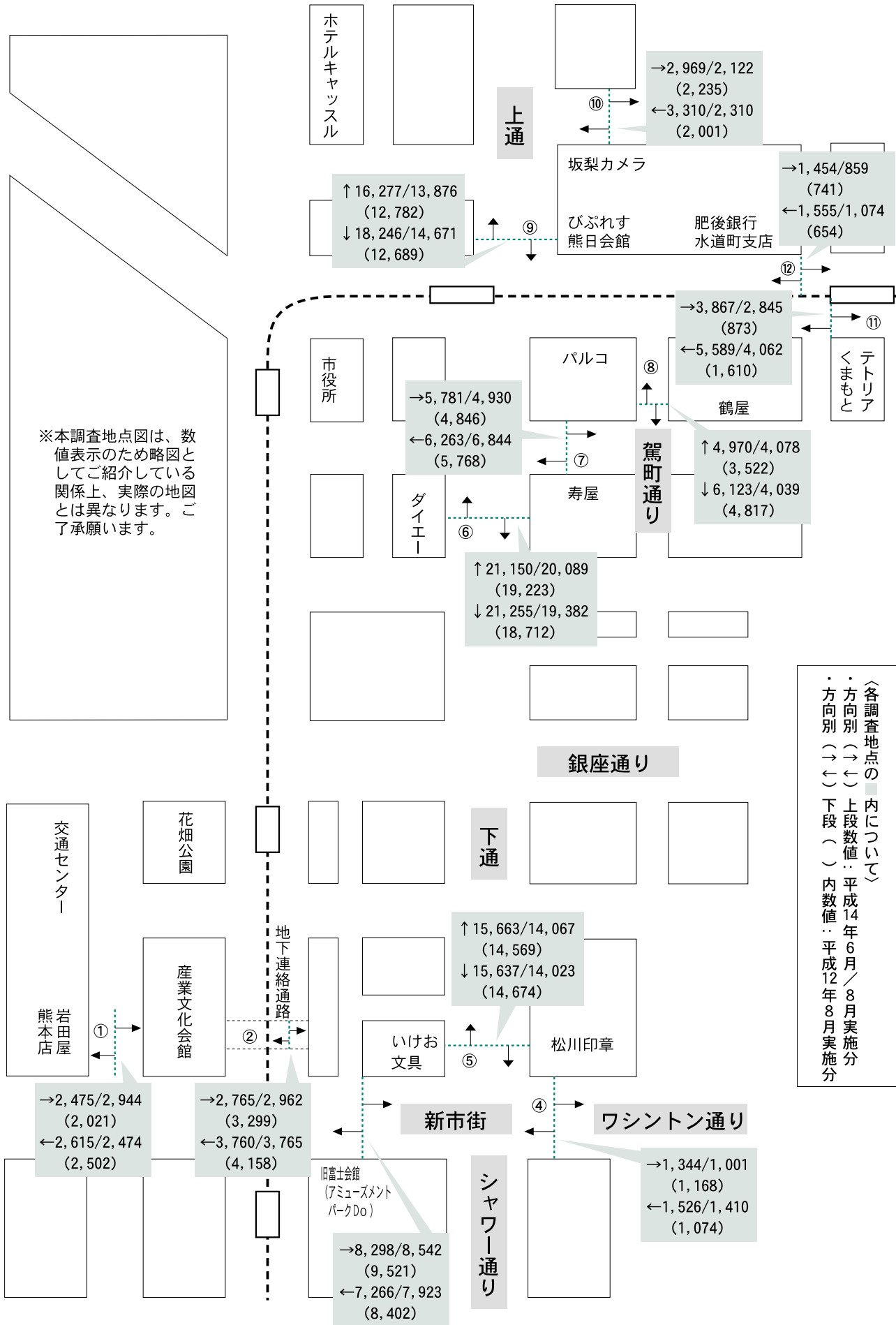
#### 調査概要

○調査日 平成14年 8月18日(日)  
○調査時間 午前10時～午後5時  
○調査地点 熊本市中心商店街12地点

○調査対象 商店街内の歩行者及び自転車通行者  
○実施期間 熊本商工会議所・熊本市

◆中心商店街通行量調査 (調査地点図)

※本調査地点図は、数値表示のため略図としてご紹介している関係上、実際の地図とは異なります。ご了承願います。



〈各調査地点の■内について〉  
・方向別 (→←) 上段数値…平成14年6月/8月実施分  
・方向別 (→←) 下段 ( ) 内数値…平成12年8月実施分